

「クリニカルラダー『レベルⅢ』」に対応した教育プログラム

		教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価
倫理的感応力	ケアリングの姿勢	①ラダーレベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる （ケアリング実施のための自己課題を明確にできる）	・カンファレンス（教育担当者や同僚とともに行う：自らの実践事例より、ケアリング行動や、その行動の妊産褥婦・家族にとっての意味を考える／今後の自らの助産実践における課題を明確にする）	・カンファレンスへの参加度や発言内容から教育担当者が評価し、本人へコメントを返す
マタニティケア能力	妊娠期・分娩期・産褥期新生児期の診断とケア／分娩期の配慮の視点	【情報収集】 ①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報を理論的な根拠に基づいて収集できる ②心理・社会的側面、家族背景も考慮したアセスメントを行うために情報収集できる ③②の情報を、必要性・優先度を考慮して整理できる ④他の関連職種からも意図的に情報収集できる	・左記内容について事例を用いたレポート（場面を再構成できるように記述する）	・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して、上司・同僚などと検討する
		【アセスメント／問題（ニーズ）の明確化】 ローリスク ①潜在するニーズを明確にできる ハイリスク ①潜在する助産問題を明確にできる ②助産問題と共同問題を明確に区別できる 【診断】 ①健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる ②診断した内容について、助産師のよるケアでよいか、医師による医療介入が必要かを考慮したうえで、優先順位を判断できる 【計画立案】 ①妊産褥婦・新生児の心理・社会的状況や家族の状況を踏まえた助産計画を立案できる ②状況に応じて計画立案・修正できる ③妊産褥婦および家族参加型の助産計画を立案・修正できる ④関連する保健医療職との連携も含めた計画を立案・修正できる 【実践】 ①計画に基づいて妊産褥婦・家族の反応を確認しながら実践できる ②施設・部署全体の妊産褥婦・新生児ケア実践において、中心的役割が実践できる ③助産外来において、教育・指導的役割が実践できる ④関連する他の保健医療職と連携して実践できる 【評価】 ①提供した助産ケアについて、妊産褥婦・新生児・家族のニーズに合っていたか評価できる ②後輩・学生のロールモデルとなっているか自己評価できる	・レポート（場面を再構成できるように記述する／妊娠・分娩・産褥・新生児すべてを網羅する〔各期で分けて書いてもよい〕）／院内助産事例を含める／後輩への指導場面を含める） ・レポートをもとにした振り返り	・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して、上司・同僚などと検討する ・ラダーⅢをクリアするまでに、再確認が必須となる内容（産科出血とその対応／周産期メタナルヘルス／合併症／仰臥位以外の分娩）

※表内 青字：学研オンデマンド研修内容
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容
 ※表内 緑字：必須実践内容

			教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価
専門的自律能力	教育	教育・指導	①後輩、学生の指導において中心的役割を担うことができる ②病棟内の学習会で中心的役割を担うことができる ③施設内の教育（後輩や学生）について企画運営に参画できる ④成人学習のプロセスについて、基本的事項を理解できる ⑤あらゆる対象への保健指導を実施できる	・内部または外部講義（教育と指導／教育評価） ・集団指導（BM、母乳育児クラス）の原稿作成 ・集団指導（母親学級、父親学級）の実施	・知識の確認、振り返り ・学会等の産科状況の確認
		自己開発	①自己のキャリアや専門性を踏まえ、計画的に院内・院外の継続教育プログラム、研修に参加できる ②専門分野を深めるための自己課題を明確にし、取り組むことができる ③取り組んだ結果を実践に活用できる	・キャリアカウンセリング／目標管理面接	
	研究	①研究的取り組みを計画し、スタッフとともに実践できる ②研究的取り組みの結果を発表できる	・内部または外部講義（プレゼンテーション技法等） ・OJT（研究実践／学会等に1回は参加する）		
専門的自律能力	倫理	コミュニケーション（対人関係）	①自分の対応が相手に与える影響を予測しながら行動できる ②妊産褥婦・家族の反応の変化を見逃さず、受け止めることができる ③状況に応じてアサーティブなコミュニケーションをとることができる ④関連職種との間においても、良好な関係を維持できるようなかわりができる	・内部または外部講義（コミュニケーションの基本／具体的な対応） ・OJT ・左記内容について事例を用いたレポート	・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚などと検討する
		社会性	①職務規定を理解し、それを遵守して行動できるように指導できる（遅刻・早退・無断欠勤をしない等） ②スタッフが規定に基づき、速やかに報告・連絡・相談できるように指導できる ③スタッフが全体の身だしなみが整うように指導できる ④社会人またチームの一員として責任ある行動がとれるように指導できる	・レポート	・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚などと検討する
	助産倫理	①倫理的意思決定のプロセスに参画できる ②①においては、対象・家族の視点を理解し、必要な情報提供等の支援ができる ③倫理的課題に対して、対象や家族、関連する職種と対話をもちながら、最善の選択ができるよう行動できる ④法的根拠に基づいた実践ができる ⑤学生指導や研修生の実習に伴う助産師・看護師の法的責任について理解し、実践できる	・内部または外部講義（倫理的意思決定）		
	管理（マネジメント）	安全	①療育環境が安全であるか常に配慮し、調整できる ②アクシデント・インシデント・感染防止・災害対策に関して中心的役割を担うことができる ③職員の安全が確保できる職場環境を整えるために取り組める ④医療機器を安全に使えるように環境調整できる ⑤備品・医療材料に関する法令（PL法など）に関心をもつことができる	・演習（事例分析） ・OJT（感染対策／災害対策） ・シミュレーション（災害訓練／妊産婦・新生児の緊急時の対応）	・シミュレーションでは、リーダーとしての役割がとれることを、実際に確認、振り返り
		経済性	①自施設の物療システムを理解できる ②診療報酬制度などの医療政策に関心をもつことができる	・講義（日本の医療制度と診療報酬）	・知識の確認、振り返り
		リーダー	①助産業務における調整機能を発揮できる ②他部門との連携・調整できる ③後輩からの相談を受け、支援できる	・講義（看護単位におけるリーダーシップ／助産管理の基本／助産ケアの室管理／助産業務管理）	・振り返り

※表内 青字：学研オンデマンド研修内容
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容
 ※表内 緑字：必須実践内容